



翠清会梶川病院

# 翠清会ニュース

2012

10月号

No. 189号



日本医療機能評価機構認定施設

## 今号の内容

new

当院では病院の1Fフロアで「FON」の無料インターネット接続サービスが利用できます。ご希望の方は医事課までお問い合わせください。

- わが国の脳神経外科医は多い？
- 脳振盪について
- 脳梗塞の治療といつても実は⑤  
—アルガトロバン—

- 看護部通信 季節はずれの熱中症に注意
- 委員会紹介 栄養管理委員会
- 3.0T MRI "Spectra" いよいよ稼働 !!

10月の果物  
梨

## わが国の脳神経外科医は多い？

副院長・脳神経外科部長 須山嘉雄

最近、外科医になることを敬遠する医学生が多いといったことをよく耳にします。例えば、脳外科医は時間外の呼び出しが多く、一人前になるにも非常に時間がかかるなど敬遠される原因が多いのも事実です。

一方では、わが国の脳神経外科医は多すぎるという報告もあります。しかし、実際の現場では不足しているという意見が多く聞かれます。では、なぜこのような意見の相違が見られるのでしょうか？ 厚生労働省からの報告では、人口あたりの脳外科医数を米国1.0とした場合、わが国の脳外科医は3.4と多くなります。（整形外科は2.0、麻酔科は0.4、小児科は0.5、産婦人科は0.8）このデータだけをみると確かに多いと思われるかもしれません。では、なぜ実際の現場では少ないと感じるのでしょう？ 実は、脳外科は基本領域の診療科に属しています。基本診療とは建物の1階部分に相当し、一般外科や内科も1階部分です。 脳外科の2.3階部分には極めて高度に専門分化した領域（小児脳神経外科や脊椎脊髄外科、血管内治療科など）が含まれます。例えば、心臓外科は外科の2階に位置し、神経内科は内科の2階部分に位置します。脳外科が2階部分なら現在の人数で十分ということになりますが、実際には「開業して外来のみしている」、「リハビリテーション医となっている」、「手術はせずに神経内科領域をみている」といった手術以外の分野で活躍する脳外科医が多いのが実情です。のことより、みなさんが思われている“脳外科医（手術をしている）”が全国的に少ないのがおわかりいただけると思います。当院では脳神経内科医が5名と多く、脳卒中における内科治療の多くの部分を診ることで、脳外科医は2名体制でも本来の脳外科医としての役割（手術を中心とした）を十分に果たすことができています。



のうしんとう

# 脳振盪について

院長 若林伸一



頭部打撲後の患者さんで、画像診断は正常でも受傷時やその後の記憶がない方をしばしば診察します。いわゆる脳振盪です。脳振盪とは、頭部が何らかの衝撃を受けた際に発現する神経の機能的変化で意識消失、意識障害、記憶障害、けいれん等の症状が出現しますが、通常は後遺症なく回復します。しかし、スポーツ外傷等でたびたび頭部打撲を受ける場合、脳振盪を繰り返すことにより致命的な病態を引き起こすことがあります。このことを繰り返し損傷(second impact syndrome)といいます。スポーツで脳振盪を起こした場合、プレーへの復帰をいつ許可するかという問題があります。米国(American Academy of Neurology : AAN)では脳振盪を重症度分類しそれぞれの競技復帰時期についての目安が示されています。

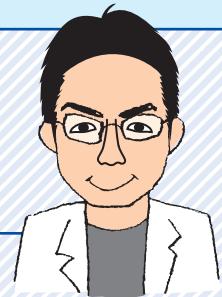
## 脳振盪の重症度分類と競技復帰への目安 (American Academy of Neurology : AAN)

グレード	症 状	最 初	2回目以降
1	意識消失なし 意識混濁15分以下	退場させ無症状であれば当日の競技復帰を許可	当日復帰不可 1週間無症状なら再開可能
2	意識消失なし 意識混濁15分以上	当日復帰不可 1週間無症状なら再開可能	当日復帰不可 2週間無症状なら再開可能
3	意識消失あり	当日復帰不可	1ヶ月は復帰不可
	数 秒	1週間無症状なら再開可能	
	数 分	2週間無症状なら再開可能	

意識がない選手にバケツで頭から水をかけてすぐに試合をさせていた時代は昔の話です。  
頭部打撲により一過性でも症状が出現したときは、専門医を受診することをお勧めします。

# のうこうそく 脳梗塞の治療といつても実は⑤ —アルガトロバン—

副院長・脳神経内科主任部長 野村栄一



「脳梗塞の急性期治療は、まず血栓を溶かして、詰まった血管を再開通させる血栓溶解療法を行えるかどうかを第一に考えます。しかし、この治療は現時点では脳梗塞になった人の2-5%程度しか使えません。使えない人には、抗血小板薬のアスピリンを使うかどうかを検討するのが今のところ世界標準です」。とここまで前回の文章とほぼ同じです。前回は抗血小板薬のオザグレルについて説明しましたが、実は日本にはもう一つアルガトロバンという注射薬があります。血液を固めるために血小板と凝固因子が主に働きます。オザグレルは血小板の働きを抑えますが、一方アルガトロバンは、トロンビンという凝固因子の働きを阻害することで血液をサラサラにし、脳血流を改善します。臨床試験においては、



「発症から48時間以内の昏睡状態ではないような動脈硬化を原因とする脳梗塞」において治療効果があるという結果が得られました。当院では脳梗塞のなかでもアテローム血栓性脳梗塞、Branch Atheromatous Diseaseの方に主に使用します（「脳梗塞と言っても実は」の2および6を参照してください）。脳梗塞の治療のためには、基本的に1週間続けて使用しますが、3日目から投与量を減らすことと、今後の再発予防のために抗血小板薬（アスピリン、シロスタゾール、クロピドグレル）を服用して頂く必要がありますので、病状によりますが、早い時期からこれらの抗血小板薬を併せて内服していただくことが多いと思います。

## 看護部通信

## 季節はずれの熱中症に注意

看護部 曽利 稔

暑さもひと段落し、秋の気配が深まりつつある今日この頃ですが、皆様体調などは崩されてはおられませんか？この季節に熱中症？と思われるかもしれません、厚生労働省および国立環境研究所などが発表している統計でもピークは過ぎていますが、熱中症患者が発生しているのが現状です。

- 熱中症とは…高温多湿の環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調節機能がうまく働く種々の症状が出現します。

- 熱中症の予防法

熱中症の予防には「水分補給」と「暑さを避けること」!!

- ・水分・塩分補給

こまめな水分・塩分の補給（特に高齢者の場合、のどの渇きを感じなくても、こまめな水分補給を）

☆熱中症予防の観点だけではなく、水分補給を怠り、脱水状態となると脳梗塞のリスクを高めてしまいます。

- ・外出時の注意

日傘や帽子の着用、日陰の利用、こまめな休憩

- ・体調に合わせた対策

こまめな体温測定（特に体温調節機能が十分でない子供、高齢者）  
通気性の良い、吸湿・速乾の衣服着用



# 委員会紹介 03

## 栄養管理委員会

委員長 今村栄次

栄養管理委員会は、入院患者さんの病院食の内容や水分などの検討を行ったりしています。栄養管理業務を合理的に運営し、かつその円滑なる実施をはかることを目的に設置しているものです。構成メンバーは、医師、栄養士、言語聴覚士、看護師、薬剤師など、他の委員会同様多職種に渡っています。当院は脳血管障害を専門としていますから、嚥下機能に障害がある方が多数おられます。食事形態によっては、誤嚥性肺炎を起こしやすくなったり、窒息を起こしやすくなったりします。これらを予防したり嚥下訓練をスムーズに行ったりするために、きざみ食、ミキサー食、ゼリー食、口から食事が摂れない場合の注入食などを用意しており、食事の見た目、味、大きさを試食などにより検討しています。患者さんがより安全に、より快適に入院生活が過ごせるように、より一層質の高い栄養管理が行なわれるようチーム医療を行っていきたいと思っています。



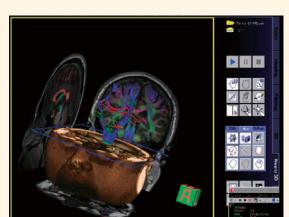
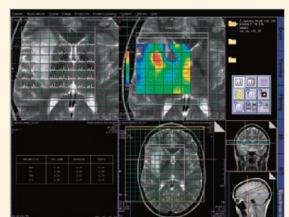
### 検査部通信

## 3.0T MRI "Spectra" いよいよ稼働!!

副院長・放射線科部長 若林千恵子

約10年間使用した1.5Tシンフォニー(Symphony)を新規更新し、2012年10月1日から3.0Tスペクトラ(MAGNETOM Spectra、シーメンス社)を西日本で初めて導入しました。3.0TのT(テスラ)は磁束密度を表し、従来の2倍の磁束密度になったことで、より詳細な画像がより短時間に撮影できるようになりました。更にこれまでの3.0T機種と比較し、コンパクトで消費電力も約半分程度と省エネタイプです。

最新世代のMRI稼働により、日常診療、脳ドックでより高精度の画像診断が可能となり、皆様にさらに質の高い医療がご提供できるようになったことをご報告します。



当院でのMRI導入実績

1989年 2月 HITACHI MPR-20-1 (0.2T)  
1992年 2月 HITACHI MPR-20-EX (0.2T)  
1995年 10月 SHIMAZU MAGNEX α (0.5T)  
1999年 10月 SHIEMENS Harmony (1.0T)  
2002年 12月 SHIEMENS Symphony Singo (1.5T)  
2006年 6月 SHIEMENS Magnetom Avanto (1.5T)  
2012年 10月 SHIEMENS Magnetom Spectra (3.0T)



■医療法人■

翠清会 梶川病院

TEL 082-249-6411  
FAX 082-244-7190

〒730-0046 広島市中区昭和町8-20  
<http://www.suiseikai.jp>

